

広域圏連携の未来を考える

昨年度から今年度にかけて6回の連続した研修が終わりました。名古屋市を中心とする39市町村の若手でワーキンググループを結成し、広域圏の20年を考えるとという企画でした。

☆全体の流れは

第1回、2回で圏域全体の過去をふりかえり、現在を見つめ、子ども、子育て・働く世代、高齢者、来街者の4世代が幸せに暮らす未来とそこに至る道筋（ストーリー）を考えました。

第3回、4回、5回では、第2回で各グループから出てきたストーリーの共通点を整理し、「働く」「食べる」「伝える」のキーワードからゲストをお呼びし、ストーリーの中に位置づけることをしました。

第6回では、「伝える」のアイディアをストーリーに組み込み、報告に向けてポイントの整理と伝え方のアイディアをだしました。

今後、この成果を首長の会議で報告することが決まっています。

☆各回の進め方は

ファシリテーションの手法をふんだんに取り入れたものになりました。アイスブレイクや共有の方法、グループワークの進め方、ゲストとの質疑応答の場面など、できるだけ重ならない方法で進めました。

バースデイサークルつくったり、マインドマップを使ったり、フィッシュボウルをしたり、グループも何度もメンバーが入れ替わるようにして交流を促進するよう努めたりしました。この中で、新しいポスターセッションの進め方（ぐるぐるポスターセッションと名付けました）が生まれ、参加した方々からもご好評をいただきました。



☆より積極的な参加へ

どのような名前の手法を使っているのかということをお伝えせず、進め方のみをお伝えしていたのですが、開催概要を作成したコンサルさんがワークの名前を入れてくださいました。すると、その名前を見て、検索し、ふりかえってくださった参加者が複数いらっしゃったのです。それを教えていただき、研修後まで継続する積極的な参加の場になったことを知りました。

☆ファシリテーターとして、とても嬉しいお言葉をたくさんいただいた、ありがたい機会でした。こんな機会をくださり、提案を受けとめ、一緒に作り上げてくださった名古屋市さん、参加者のみなさんに感謝しております。